

熱くうだるような夏のはずが、このところ台風6号、8月の豪雨と立て続けに自然の猛威を痛感させられています。そんな中、当広報委員会メンバーの玉井先生に御投稿いただきました表紙の幻想的な風景写真にはなにか安堵の気持ち、懐かしさが湧いてくる素晴らしい作品です。

さて9月号の内容ですが、真栄田常任理事には巻頭言で沖縄県医師会館建設について触れていただきました。県医師会会議室にも精巧な新会館の模型、完成予想図画があり、会館建設もいよいよ現実味が増してきました。その他、医師協同組合通常総代会のご報告、そしてめでたく旭日双光章を受章された糸数健先生へのお祝いの言葉と受章祝賀会のご報告をいただきました。宮城信雄会長には次の2題をいただきました。一題目は6月の臨時代議員会での平成18年度諸決算並びに医師会館建設状況報告、医療制度改革関連法案の対応などについての報告、二題目は都道府県医師会長協議会についてご報告をいただきました。安里常任理事には新たな医療計画、医師不足問題などについて話し合われた地域医療担当理事連絡協議会の報告、金城理事には「共同利用施設における特定健診・保健指導の対応策について」をメインテーマに長崎にて開催された共同利用施設連絡協議会についてご報告いただきました。

玉井理事からは社会的関心が高くなってきたメタボリックシンドロームをテーマとした県民公開講座の様子と、非常に広い医療圏を抱える沖縄県の救急医療のキーポイントとなるドクターヘリをテーマにしたマスコミ懇談会の様子を伝えていただきました。マスコミ懇談会では、多数の離島を抱える沖縄の特殊性から、救急患者の収容・移送を行うドクターヘリと医療施設間のヘリ添乗問題はお互いが絡み合い複雑な問題であることが浮き彫りになっています。十数年前に宮古島からの救急患者移送業務中にて亡くなられた知花医師は私の大学の一期先輩で、在学中から大変お世話になっていました。ヘリ添乗輪番病院にて救急医療に携わり始めていた私も

その悲報をきき、大きなショックを受けました。患者さんにとっては大変有益なサービスであることは明らかですが、こうした危険性のあるサービスであることをよく理解した上で、沖縄の地域性にマッチしたすばらしい「ドクターヘリ」システムができることを期待しています。

次は、今後の医療を背負って行く卒後研修真っ只中の仲西貴也先生に自己紹介と今後の抱負を書いていただきました。

月間（週間）行事のコーナーでは、沖縄病院院長石川清司先生にがん征圧月間に因んで、県立中部病院山口裕先生に救急の日・救急医療週間に関して、琉球大学医学部教授藤田次郎先生には結核予防週間についてそれぞれご紹介していただきました。

生涯教育コーナーでは琉球大学医学部教授西巻正先生に食道がん治療法と沖縄における現状について、プライマリ・ケアのコーナーでは琉球大学医学部我那覇章先生に小児期の難聴について、最新の資料などを添えて詳しく解説していただきました。

インタビューコーナーには4月に沖縄県福祉保健部長に就任された伊波輝美氏に登場していただきました。地区医師会コーナーでは南部地区医師会の野原俊一先生から介護保険事業運営などについてご投稿していただきました。安里公先生にはいきいきグループとして金沢大学医学部同窓会を紹介頂きました。若手コーナーでは、国吉毅先生に大学医局制度から現行の新臨床研修制度、そして研修中の若手医師への熱い思いを書いていただきました。随筆には与座一先生、山城竹信先生からご投稿いただきました。

本号の作成においては多くの先生方のご協力が得られましたこと大変感謝しております。個々の内容はすべてが充実しているものばかりでしたが、読者の会員の皆様には今後も医師会報の作成には投稿などのご協力が得られますようお願い申し上げます。

広報委員 比嘉 靖